



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)静岡サレジオ小・中・高等学校プライマリーステージ校舎新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>*</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2	/5	ふつつ			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.6	/5	ふつつ			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9	/5	がんばろう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5	がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.2	
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①外皮性能の向上。</li> <li>④耐久性に優れた内装材の採用。</li> <li>④耐久性に優れた設備配管の採用。</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦断熱性能に優れた外壁材の採用。</li> </ul> </li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑫設備基材におけるグリーン購入法適合品の採用。</li> <li>⑫将来の解体時における躯体と仕上げ材の分別の容易を計画。</li> <li>⑬有害物質を含まない接着剤の使用。</li> <li>⑬ODP=0、GWP=1の断熱材を採用。</li> </ul> </li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑭LCCO2排出率を低減。</li> <li>⑮ガス燃焼機器を使用しない。</li> </ul> </li> </ul>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	3.6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑯耐震性能の向上 Z・I=1.50。</li> </ul> </li> </ul>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑲ゆとりある階高を確保。</li> <li>⑲自由度の高い平面計画。</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</li> </ul>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上		
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	2.7	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上)</li> <li>■敷地外環境対策 (㉕温熱環境悪化の改善)</li> </ul>	Q-3 1 ㉒ 生物環境の保全と創出 2 ㉓ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ㉔ 敷地内温熱環境の向上 LR-3 2 2.2 ㉕ 温熱環境悪化の改善			

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)静岡サレジオ小・中・高等学	階数	地上4F
建設地	静岡市清水区中之郷三丁目468番6	構造	S造
用途地域	準工業地域 防火・準防火地域指	平均居住人員	390 人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,400 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年8月 予定	評価の実施日	2020年6月29日
敷地面積	2,020 m <sup>2</sup>	作成者	鈴木 浩峰
建築面積	1,002 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,197 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 92%  
③上記+②以外の 92%  
④上記+ 92%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安を示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適で維持管理のしやすい執務空間とすることで環境品質が向上するよう努めている。</li> <li>・環境負荷の少ない建材の使用や周辺への環境対策に努めている。</li> </ul>		<p><b>その他</b></p> <p>特になし。</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>優れた外皮性能を有しており、遮音対策・照明やシックハウス対策などについて学習環境が向上するよう計画している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>耐震性に優れており、仕上材や設備配管も耐久性のあるものを採用している。またゆとりある空間感を確保しており、機能的で耐用性に優れた空間となっている。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>建築物の形態や色彩などに配慮するなど景観向上に努めている。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>外皮性の向上を図っている。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>建材の再利用や有害物質を含まない材料の使用に努めるなど、環境への悪影響の低減を図っている。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>交通対策や光害の抑制などを中心に、周辺への環境負荷の低減に取り組んでいる。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される